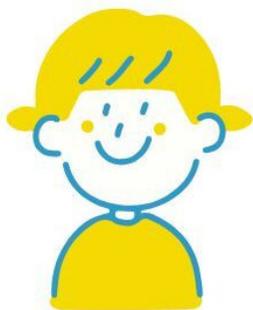




令和7年度 奈良県幼・小・中・義務教育学校

教育課程研究集会

小学校 国語科



学習指導要領の趣旨を踏まえた 指導の在り方について

奈良県教育委員会事務局
義務教育課
授業力向上係
指導主事 澤 裕史

学習指導要領を確認しましょう

第1節 国語

● 第1 目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 日常生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
- (2) 日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。
- (3) 言葉がもつよさを認識するとともに、言語感覚を養い、国語の大切さを自覚し、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

● 第2 各学年の目標及び内容

(第1学年及び第2学年)

1 目標

- (1) 日常生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。
- (2) 順序立てて考える力や感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えをもつことができるようにする。
- (3) 言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切にしたい、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

2 内容

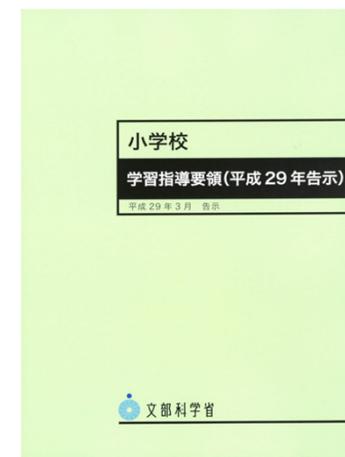
〔知識及び技能〕

- (1) 言葉の特徴や使い方に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
 - 言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。
 - 音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付く

国語科
の目標

各学年
の目標

各学年
の内容



文部科学省「小学校学習指導要領(平成29年告示)」

小学校国語科の目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 日常生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。

[知識及び技能]

(2) 日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。

[思考力、判断力、表現力等]

(3) 言葉がもつよさを認識するとともに、言語感覚を養い、国語の大切さを自覚し、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

[学びに向かう力、人間性等]

「小学校学習指導要領(平成29年度告示) 解説 国語編」

「言葉による見方・考え方」を働かせる

児童が学習の中で、対象と言葉、言葉と言葉との関係を、言葉の意味、働き、使い方等に着目して捉えたり問い直したりして、言葉への自覚を高めること

「小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 国語編」 p.12

「言葉」にこだわること

何を学ぶのか

国語科においては、言葉を通じた理解や表現及びそこで用いられる言葉そのものを学習対象としている。

語彙指導の改善・充実

語彙を豊かにすることに関する事項である。

語句の量を増すことと、語句のまとまりや関係、構成や変化について理解することの二つの内容で構成している。

中央教育審議会答申において、「小学校低学年の学力差の大きな背景に語彙の量と質の違いがある」と指摘されているように、語彙は、全ての教科等における資質・能力の育成や学習の基盤となる言語能力の重要な要素である。このため、語彙を豊かにする指導の改善・充実を図っている。

語彙指導の改善・充実

学年	指導事項
第1学年及び第2学年	身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすること。
第3学年及び第4学年	様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすること。
第5学年及び第6学年	思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。
中学校 第1学年	事象や行為、心情を表す語句の量を増すと同時に、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。

語彙を豊かにするとは、自分の語彙を量と質の両面から充実させることである。具体的には、意味を理解している語句の数を増やすだけでなく、話や文章の中で使いこなせる語句を増やすとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化などへの理解を通して、語句の意味や使い方に対する認識を深め、語彙の質を高めることである。

「小学校学習指導要領(平成29年告示) 解説国語編P8」

学習の系統性の重視

C 「読むこと」の指導の系統表(一部抜粋)

C 読むこと

	(小) 第1学年及び第2学年	(小) 第3学年及び第4学年	(小) 第5学年及び第6学年	(中) 第1学年	(中) 第2学年	(中) 第3学年
	(1) 読むことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。			(1) 読むことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。		
構造と内容の把握	ア 時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えること。 イ 場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること。	ア 段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えること。 イ 登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えること。	ア 事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握すること。 イ 登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えること。	ア 文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握すること。 イ 場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えること。	ア 文章全体と部分との関係に注意しながら、主張と例示との関係や登場人物の設定の仕方などを捉えること。	ア 文章の種類を踏まえて、論理や物語の展開の仕方などを捉えること。
精査・解釈	ウ 文章の中の重要な語や文を考えて選び出すこと。 エ 場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。	ウ 目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約すること。 エ 登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像すること。	ウ 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすること。 エ 人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること。	ウ 目的に応じて必要な情報に着目して要約したり、場面と場面、場面と描写などを結び付けたりして、内容を解釈すること。 エ 文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えること。	イ 目的に応じて複数の情報を整理しながら適切な情報を得たり、登場人物の言動の意味などについて考えたりして、内容を解釈すること。 ウ 文章と図表などを結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈すること。 エ 観点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や論理の展開、表現の効果について考えること。	イ 文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの方や考え方について考えること。 ウ 文章の構成や論理の展開、表現の仕方について評価すること。

国語科の指導内容は、系統的・段階的に上の学年につながっていくとともに、螺旋的・反復的に繰り返しながら学習し、資質・能力の定着を図ることを基本としている。

「小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 国語編」 p.10

言語活動の創意工夫

	(小) 第1学年及び第2学年	(小) 第3学年及び第4学年	(小) 第5学年及び第6学年
	(1) 読むことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。		
構造と内容の把握	ア 時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えること。 イ 場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること。	ア 段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えること。 イ 登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えること。	ア 事実と感想、意見などの関係を叙述を基に捉え、文章全体の構成を捉えて要旨を把握すること。 イ 登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えること。
精査・解釈	ウ 文章の中の重要な語や文を考えて選ぶこと。 エ 場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。	ウ 目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約すること。 エ 登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像すること。	ウ 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすること。 エ 人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること。
考えの形成	オ 文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。	オ 文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつこと。	オ 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。
共有	カ 文章を読んで感じたことや分かったことを共有する	カ 文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の考えや感想について話し合うこと。	カ 文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えや感想について話し合うこと。
言語活動例	(2) (1)に示す事項については、 ア 事物の仕組みを説明した文章などを読み、分かったことや考えたことを述べる活動。 イ 読み聞かせを聞いたり物語などを読んでたりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。 ウ 学校図書館などを利用し、図鑑や科学的なことについて書いた本などを読み、分かったことなどを説明する活動。	例えば、次のような言語活動を通して指導するものとする。 ア 記録や報告などの文章を読み、文章の一部を引用して、分かったことや考えたことを説明したり、意見を述べたりする活動。 イ 詩や物語などを読み、内容を説明したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動。 ウ 学校図書館などを利用し、事典や図鑑などから情報を得て、分かったことなどをまとめて説明する活動。	ア 説明や解説などの文章を比較するなどして読み、分かったことや考えたことを、話し合ったり文章にまとめたりする活動。 イ 詩や物語、伝記などを読み、内容を説明したり、自分の生き方などについて考えたことを伝え合ったりする活動。 ウ 学校図書館などを利用し、複数の本や新聞などを活用して、調べたり考えたことを報告する活動。

(1) 読むことに関する次の事項を身に付けることができるように指導する。

指導事項

(2) (1)に示す事項については、例えば、次のような言語活動を通して指導する基とする。

言語活動例

学習の系統性の重視/ 授業改善のための言語活動の創意工夫

〔思考力、判断力、表現力等〕の各領域において、どのような資質・能力を育成するかを(1)の指導事項に示し、どのような**言語活動を通して**資質・能力を育成するかを(2)の言語活動例に示すという関係を明確にするとともに、**各学校の創意工夫により授業改善が行われるようにする観点**から、従前に示していた言語活動例を言語活動の種類ごとにまとめた形で示した。

「小学校学習指導要領(平成29年告示) 解説国語編P10」

話すこと・ 聞くこと	話し手がある程度まとまった話をし、それを聞いて、聞き手が感想や意見を述べる言語活動	情報を収集したり、それらを発信したりする言語活動	目的に沿って話し合うことを通して互いの考えを共有したり、生かし合ったりする言語活動
書くこと	主として説明的な文章を書く言語活動	主として実用的な文章を書く言語活動	主として文学的な文章を書く言語活動
読むこと	主として説明的な文章を読んで分かったことや考えたことを表現する言語活動	主として文学的な文章を読んで内容を説明したり考えたことなどを伝え合ったりする言語活動	主として学校図書館などを利用し、本などから情報を得て活用する言語活動